毎日ムック 2013年9月30日発売号 掲載

病院最前線 2014

情熱医療 眼科

プロフェッショナルドクター Professional Doctor

MAINICHI MOOK
Professional Doctor

医療法人社団 研英会
林眼科病院

医療法人社団 研英会

林眼科病院

熱情医療 眼科 プロフェッショナルドクター Professional Doctor

革新する眼科医療の先端情報に目を向け 医師とスタッフが一丸となって幅広い眼科疾患に対応

林眼科病院の2012年1～12月の手術実績は白内障4559例、硝子体・剥離731例、緑内障176例、角膜移植50例、外眼部265例。外来患者数は10万6937人にのぼる。特に、網膜硝子体、緑内障手術の増加が著しい。手術の安全性と術後の視機能を重視するという医師グループに、先端の眼科医療について語ってもらった。

林 研 院長 はやし・けん

1982年、九州大学医学部卒業。86年、米国ハーバード大学留学。89年、九州大学大学院を修了、林眼科病院院長を経て、14年より理事長兼任。日本眼科学会認定眼科専門医。日本白内障屈折矯正手術学会理事、日本眼科手術会常任理事、日本角膜移植学会理事、眼科手術編集責任者、Journal of Cataract and Refractive Surgery Editorial Board. 前眼部手術全般を担当し、年間（2012年1～12月）2500例をこなす

きめ細かいニーズに対応する白内障治療

吉田　白内障手術に関しては、昔は濁りを取って、眼鏡をかけた視力を回復するのが目標でしたが、最近は眼鏡なしの裸眼視力の回復を目的にしています。例えば、トーリックレンズという乱視を矯正できるレンズで、本来の乱視を減らせるようになりました。また、最近の白内障手術でいえるのは、創口が小さくなったことですね。

林　数年前までは4㎜くらいでした。それが3㎜になって、ついに2㎜までできたか、という感じです。

吉田　創口を小さくすると術後の乱視が出にくく、創口も確実に閉じるので、なるべく小さい創口の手術を行うようにしています。レンズ光学部の大きさは6㎜ほどあり、それを2㎜の創口から入れるわけですが、創口が小さいので目に優しい手術が可能になりました。

吉田　手術機器や材料が改善したことに伴い、手技も進化してきました。例えば、以前は水晶体嚢（すいしょうたいのう）を切除するのが困難な場合もありましたが、染色剤を使用できるようになって難症例の手術も安全にできるようになりました。今は難しくてお断りするケースはなくなりました。

林　眼内レンズに関しては、多焦点レンズの種類が増えて、きめ細かく選ぶことができるようになりました。以前は遠くと近くは30㎝程度が見えるレンズだけだったのが、近方のピントをずらすことにより、遠くとパソコンが見えるようにしたり、左右の目に入れる多焦点レンズを違ったものにすることで、どの距離でも良い視力を得ることができるようになりました。つまり、患者さんの生活パターンに合わせることができます。

吉田　多焦点だけでなく、単焦点レンズも進歩しました。最近はレンズを着色して眼底を保護したり、非球面レンズが主流になり、高齢になっても若いころの視機能を復元する方向で技術開発が進んでいます。白内障に関しては高い確率で視機能回復が期待できるようになりました。

早期発見と早期手術で視機能を回復できるようになった網膜硝子体疾患

吉村　後眼部の網膜硝子体手術については、失明につながる網膜剥離（はくり）や糖尿病網膜症だけでなく、視力を上げる

前眼部OCT。角膜の形、隅角の様子などを検査する機器

経験豊富な医師、優秀なスタッフによる眼科医療を目指す

ための網膜の中心である黄斑（おうはん）の手術などがありますが、当院ではいずれも増えてきています。当院はいつでも3人の日本眼科学会認定眼科専門医が対応することも要因でしょうが、それに加えて眼科医療自体の進歩で早期に発見して、早期対応が可能になったためもあると思います。

鶴　僕が感じるのは、近視による黄斑網膜分離症の硝子体手術が増えてきたことですね。黄斑網膜が分離するとやがて黄斑部に円孔があいたりする場合もありますが、そうなると視機能の回復は難しく、手術の難易度も上がります。しかし、光干渉断層計（OCT）という検査機器を使えば、黄斑網膜の断面が正確にわかります。この機器の導入で、手遅れになることなく黄斑疾患の早期発見、早期治療が可能になっています。

林　早期に発見して対処することは、本当に大切と思います。例えば、強い近視の方は、40歳以降眼球の後方が変形することがあって、放っておくと黄斑円孔になることがあるので注意が必要です。以前は黄斑に円孔があいてから来院されるケースが多かったんですが、そうなる前にOCTの検査を受けられることをおすすめします。早く手術を受けることが視機能の回復や維持につながるわけですから。

真鍋　網膜硝子体手術でも、数年前から小さな創から手術する技術が進歩して、術後の回復も早く、合併症も減りました。つまり手術の安全性が格段に上がっています。視機能の維持や回復は重要ですから、後眼部でも早期手術は大切だと思います。

症状に合わせて目に優しい緑内障手術を選択

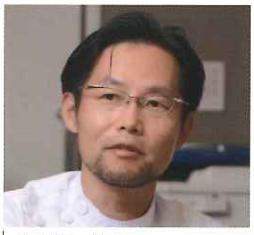
真鍋　緑内障については、その患者さんにとって適切な治療や手術を選択することが大切といえるでしょう。最近インプラントによる緑内障の手術方法が増えてきました。その中からより安全・確実で、かつ視機能を維持できる手術を行うということを常に考えています。

林　緑内障は原因も症状もさまざまですから、手術法もケース・バイ・ケースです。眼科医が、一つの方法にこだわらず、常に先端情報を取り入れながら選択肢を増やしているのは、患者さんの状態に合わせてより良い手術、そして目に優しい手術を選択する努力をしているからだと思います。

真鍋　患者さんの症状によっては同じ術式でもメリットとデメリットがあります。手技の選択肢が多いということは、より負担が少なく、成功の確率の高い術式を選べるということですから。また、インプラントに関しては、緑内障だけでなく、硝子体手術も慣れた手術医が行うのが理想的ですが、当院ではそれに対応しているので安心して

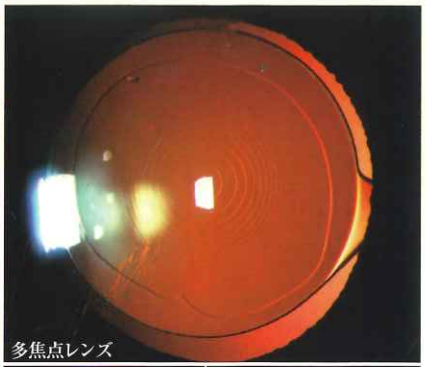
吉村 浩一　副院長
よしむら・こういち
久留米大学医学部眼科学教室。日本眼科学会認定眼科専門医。担当は網膜硝子体疾患、特に難治の症例の経験が深い

吉田 起章　診療部長
よしだ・もとあき
九州大学医学部眼科学教室。日本眼科学会認定眼科専門医。担当は前眼部手術、年間（2012年1～12月）2000例の手術を行う



真鍋 伸一　病棟医長
まなべ・しんいち
京都大学医学部眼科学教室。日本眼科学会認定眼科専門医。担当は緑内障と網膜硝子体疾患。幅広い知識があり、広範囲の疾患に対応できる

涙道内視鏡による涙道手術を行う瀧本医師。超小型カメラを涙道に通しモニターを見ながら手術する



多焦点レンズ

糖尿病網膜症に対する硝子体手術

手術を受けていただけると思います。

瀧本　これら以外でも、涙道閉塞などの涙道手術では、内視鏡を使って直接涙道がのぞけるので、確実な手術ができるようになりました。機器の進歩で、涙道の治療も確実にできるようになったことは患者さんはもちろん、手術する側にとってもうれしいですね。

眼科治療に情熱を燃やす医師グループの熱い思い

吉村　目の疾患は生死にかかわらないので、眼科はマイナーな印象がありますが、繊細な手術を行っています。患者さんの視機能はQOL(生活の質)を左右する大切な部分ですから、誇りを持って努力しています。

真鍋　私はより良い視機能回復を目指しています。いつも感じるのは、かなり悪化してから受診される方が多いことです。早く治療していれば治るのにと思うと、とても残念です。見えづらいのは疲れかな?で済まさず、体の検診を受けるように目も検診を受けることをおすすめします。

吉田　白内障の手術を受ける患者さんは、日本の高度成長を支えてこられた年代の方で、そういう方に良い結果を出したいので、常に自分の体調を整えておくように努めています。手術は、集中力が必要ですから。

瀧本　患者さんは治したいと思って受診されるので、改善への期待が膨らむ方もいらっしゃいます。でも手術にはデメリットもあるので、そこもきちんと説明しながら、手術の選択を一緒にしていくというスタンスでいたいと考えています。そうしていると最終的にはお任せしますという答えが返ってきたりするんですけどね(笑)。

鶴　月並みですが、常に向き合っている一人ひとりの患者さんを大切にするということをモットーにしています。患者さんと良い信頼関係を築いていきたいですね。

林　医療ではいろいろなことが起こりますので、病院全体としては、医師だけでなく、検査や看護師なども含めたレベルを上げたいと考えています。総合力をつけて、患者さんに満足していただけるような治療をしたいと思います。治療に真摯に取り組む姿勢は、病院全体で共有し続けたいと考えています。

瀧本 峰洋 医師
たきもと・みねひろ
広島大学医学部卒業。日本眼科学会認定眼科専門医。担当は外眼部から涙道疾患まで広範囲にわたる

鶴 秀敏 医師
つる・ひでとし
久留米大学医学部眼科学教室。日本眼科学会認定眼科専門医。担当は網膜硝子体疾患で、若いがさまざまな手術に経験が深い

医療法人社団 研英会
林眼科病院
〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前4-23-35
TEL.092-431-1680
FAX.092-414-1372
http://www.hayashi.or.jp/
診療科目：眼科
診療時間：平日 9:00～12:30／13:30～17:00
木 9:00～12:30／13:30～16:00
土 9:00～12:30
休診日：日・祝

※多焦点眼内レンズは自由診療です。料金は片眼35万円、両眼70万円になります。当院の多焦点眼内レンズ手術は先進医療に認定されております。